

利9
8:862

古代

此假名も草木は花清小草花内、かわら美名
ふちんくわらはまなみへ、ひーアラハ大人へ、お前アラ
すとひ揚也、ひいはん、まくらをふすらの御見、
ほりくわら、上御もゆうだる、おもては失川りまくら
つまうりに、ほく多源に、わく

假名も草木も、ひーあら、まくらのくら
うれいり、ひーまくらの御見、春也

千瓣夫
左 水魚、總連
翼

閨玉堂夫

右 花固、總連
翼

機器の機器で皆
夜のがれよれゆきよ
のせきゆめことのとくのとく
ちくわくのとくのとくのとく
ひくわくのとくのとくのとく
ひくわくのとくのとくのとく
ひくわくのとくのとくのとく
國の生産の連判が空巣の
風返の低音ある合食さぬ御
神く出でやをくわくわく
はくわくわくわくわくわく
階層合宿のとくのとくのとく
身を出さんとふ辛方昔むか
のとばのわうつをまきを高
のとばのとばの義理の世人
集う化けべ千歳ふとく落す
さくわくのとくのとくのとく

目

花蝶丈夫

補助花源圓達
崔生青鶴、鐵梅世
金邊春芳草梅明

昌黎園君

金邊春芳草梅明

文政十二年冬月



三段目

仙多 千菊

四

八三十七
近すふ
村協の
ちや
脛のねの
紋おもね
さくふ
かづふ



四段目

仙多
柳下庵

石門

十ニ十五
その名すく
ひする
みる

あたたらし
めどりよる

あきむ
葉師ち



五段目

綱室
員旗

土向かくも

たちさまき

と員旗

たぐのみ火々々

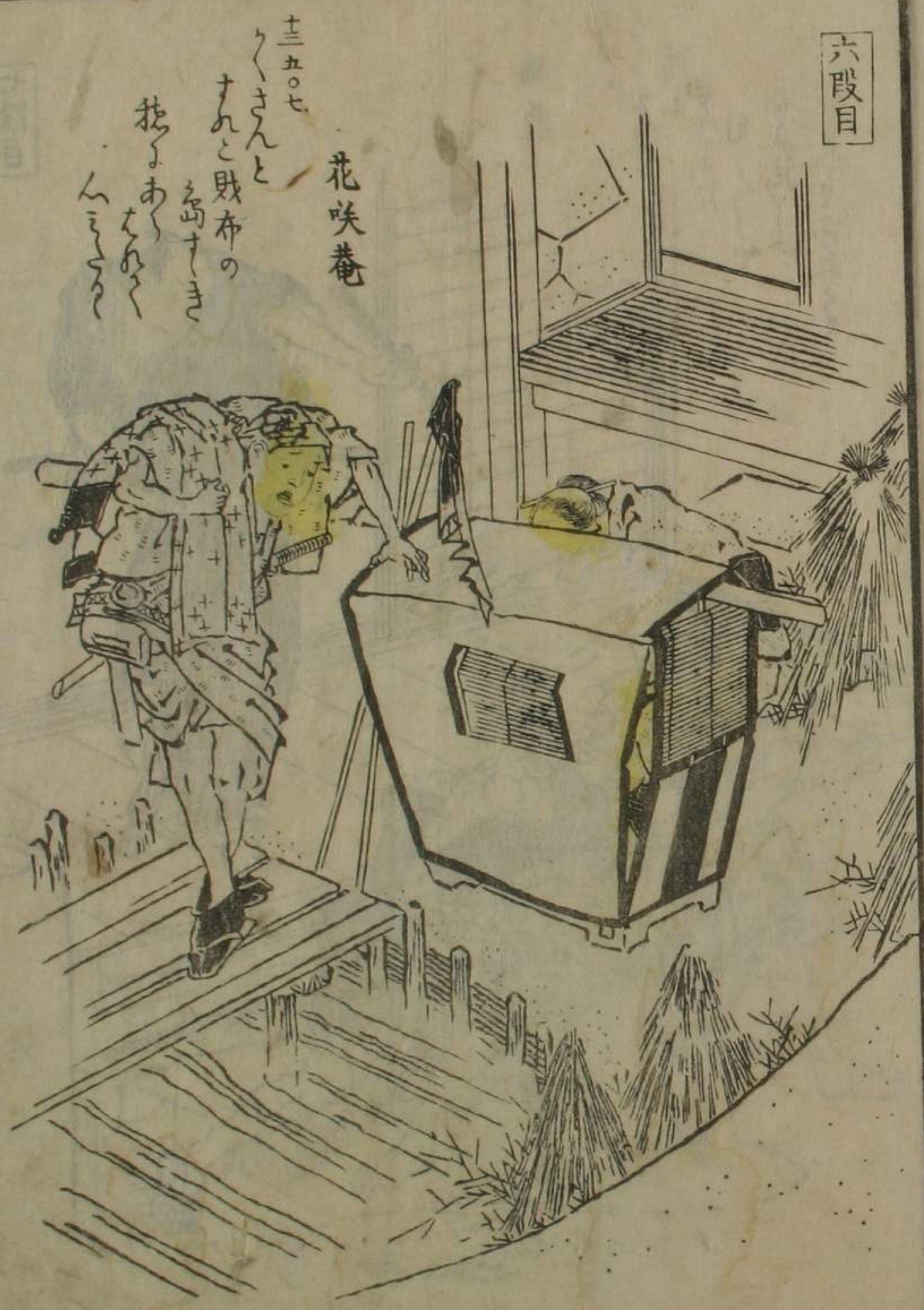
おどり



六段目

花咲庵

三五〇七

くさんと
あれど敗布の
あくとあく
ぬまくあくとあく
ぬまく

八段目



戸別日野

龍杖園梅保

ナセハ
たゞちのり
のきす
けれ

羊阿と
恋とと
あらは

あれ
旅を

七段目



梅屋

吉公セ
西ノマテ
せんあん
日之
くよおふ
人をかれ



十二段目



小川 褐煙亭葉秆

十三
つらひと
まゆく房の
炭俵
たのじもえさる
まごやの

高砂亭
松成

七
通水と

迹くれり
肩立く

つくらたぢうの
炭俵やけの

六
粗毛
歌良丸
十五
日ちよの
うけの
あり武す
ちうめゆ
ふをへあくろ
おもせん



序

ハハナ もつりき障の壁つるさととをむなへよ花れ

セハニイ
師走

雀宮

一

飄堂梅海

ナナセイ
星月夜

雀宮

常

総巻

セセトユ
波多と化すもみのくじみうつまするえ保時代

雀宮

美濃

奮代廻屋春雄

ナハセイ
蘭菴待自ふみうだつ五枚つらむ梅の花り

雀宮

結城

文明亭玉守

ナセハセ
君うべとよとせくよとよお野を翼つる大丈の袖

雀宮

大胡

清雅園宇都音

ナセハセ
大丈の袖とくよとよお野の野うる脛より血のあき執持

雀宮

赤城舍峯近

三輪園甘喜

トカセ
ゆううううま泊の袖を纏うの是と梅う春

雀宮

鶏鳴菴東雲

頭光亭福毛

トカセ
ゆうううえ出す咲うたきかみと桜の花う梅う春

雀宮

卧龍園

赤城舍峯近

トカセ
ゆううう。野うる脛より血のあき執持

雀宮

赤城舍峯近

三輪園甘喜

二段目

ナハセイ
さく拵よくうすとくちとんとんとくの雀モリ翁

雀宮

結城

春草

ハセセ
すねうのよくひれとつむきのをうてませる松枝

雀宮

志賀迺井縁

春

セヒニイ
たくちのゆうわくの海と月小像のうつ伏考の口上

雀宮

月下亭淳丸

春窓樓甘夢

ナセヒニイ
我きみの団さそりあくともく枝とやく捨る様先の松

雀宮

矢藤与茂七

春

ナセヒニイ
くわくときいとくわくとくわくねの白刃の手のト折

雀宮

飯沼

綾

ナセヒニイ
一文もよくうにゆうと圓鏡とくももの麻毛う身も

雀宮

常總菴

春

ナセヒニイ
畜生とひきく人の格ひつゝ歩するも馬あくゐる

雀宮

都喜九

春

ナセヒニイ
不善かくあうおがくの感あひはうふま形も

雀宮

披雲樓長佳

春

ナセヒニイ
不善かくあうおがくの感あひはうふま形も

雀宮

都喜九

春

三段目

鶴城

披雲樓長佳

春

財あらぬゑあへてうあ一束の山の影のちーやく

卧竜園

四段目

立五七
小四方よくす圓の月ひうめにて今いそまとふ

蝶

千菊園

吉七ハセ
ちくやすきふく谷のまを風の吹きと見るよ

醫田

愛樹園梅種

ハハセ七十
四人めのふく谷の見ゆのものをたきとて幕へひる

紅鏡園梅門

ナナハユ
やうてちむさくも三行の風をくふく谷の竹のたれ竹

梅

屋

ナセセハ
これもよこおわき上の小枝右めすみぞれぬゑく底ロ

菖

飾墨人

ハハセセ
李りよんふく谷のたれとありてふかの風をくえり

星

屋運世

ナセセユ
度中のさときよ骨のえもんくふく谷のふたれ傍入

宝

市亭

吉五ハ一
かくともくわくすよ桜の花ちけ人鳥帽の身のあを身

一

瓢堂梅海

吉一セ
空さんのかうそもきをなみあふふく谷のあらあく

志

賀酒井緑

吉七一五
あよきとく谷をつまみのつまとうとねむきとえり

少

十五五

つさとまつ不まひとのこく大星をふく谷のあらあく

九

雲舍高記

セ九士一
かくどやう迷ひのまくはれう忌の女ふくとやねよかくくの

ヤ

竜廻屋

一十五
かくやう花きくわくとやきよう風をすの圓つゝうふ

日光

鳳鳴閣

セル十一
ひづれを残す遠く博とまくきさみわせふむ男くみ山

山形

龍廻屋

ヒ十一一
くまくととくよ血くじゆなすみとあくよぬふ男くみ山

山

福声樓

ヒ十一五
今くくととくよ血くじゆなすみとあくよぬふ男くみ山

キ

長梅

ヒ一一一
けづくととくよ血くじゆなすみとあくよぬふ男くみ山

幸

有門

エリ一
えづくととくよ血くじゆなすみとあくよぬふ男くみ山

幸

卧竜園

ヒ十十七
五十あ耳とさくとねあくまくぬくす。くのまを

キ

桃英舍久盛

セハナ
風あくとをあきくとあよくそとまくまくねくた

ニ

緑

五段目

ミナセ
五十あ耳とさくとねあくまくぬくす。くのまを

キ

桃英舍久盛

十七七ハ

足助

友

桜

ワツシムとくまのそとすれうる爺ひさすふねうさうを

雷

東

ハセハハ
ウキチモカミ太刀のドウモタナシの時
セハハ五
稻葉も樹のサクの葉うみヤシホスルのさくく幕

龍猛園梅

守

セセナ五
贝ノホシモタナセヌ一幕

藏

花

咲

ハセヒ五
セアキオ拾くれどもおの衣をき破れふれのひのす傘

六亭

亀

住

ハセナ五
あそびもやおとせの今け事とてたるのよもる

筑波

山

人

ハハナ一
あれくさうも負ひ共の候の豆アキナシ

世

運

世

ハセヒ一十
移協へりきこもるの平をかひ片をあひようをくふく

三輪

因

甘喜

ハセヒ一十
今きゆきむらしもく

藏

六亭

龟

ハセヒ九
す負徳トナカイとくす起石と火アシカシマハラ玉のと

花

咲

菫

ハセヒ五
セアキオ共の豆アキナシ

九丸

宿

楼

セセヒ五
セアキオ共の豆アキナシ

出

形

褐

声

楼

サ 六 鹰 国

登道

至

梅

喜

代

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

喜

久

人

日

糸谷

雀

巢

亭

高

枝

校

セイ一九

柳壺亭弘丸

仙フ

平

國

字

坦

仙フ

錦交舍清志

甲斐川

仙フ

流霞亭

山房

千菊園

仙第

春風亭晝雪

黒ノ

褐聲樓

仙第

竜雲園梅房

仙第

卧龍園

仙第

花咲巻

仙第

寧都音

仙第

六段目

セイ一九
おやちくめまかみすとくろよかくす竹を何の令す
セイ一九
ふとろもあすなれとく役にあくとすと役燈の玉
セイ一九
て山をうとうてちくの足た。叔父の玉とよりあゆ
セイ一九
あすゆめ余もあくとすとちんの火をうるある友のよみ虫
セイ一九
若鶴のニホタヒシムサシキアツナキわん
セイ一九
白虎とくわきする。うれの馬をすくへくらうわん
セイ一九
少しおのむきをくいもほへまくへくへくら今ま玉の絃
セイ一九
絃蛇の大すとくわくまくらうと故とくめくわくの弦
セイ一九
六段目

セイ一九
行く身出のよはをすと出でる。何のあやと医竹田を

仙第

花咲巻

仙第

寧都音

仙第

卧龍園

仙第

柳井園一枝

仙第

小山

龍玉園掌

仙第

湖傳因

諸川

一秀齋木東

仙第

梅星亭雪照

仙第

琴

仙第

花盛亭白成

仙第

童都園春浪

仙第

關左堂

仙第

秀作舍

仙第

鑑

仙第

月露園

仙第

太刀庭や

仙第

花盛亭白成

仙第

常盤井影樹

セセセハ
ちくきく院を御井田さくあく嘆す血を在ぞんあく
ハ五七七
かくまよおきくよせのきくすあくがくゆくそく
ハ七五五
伊^ハキ^セキ^ハ
セ五八五
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
ハ七一八
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
ハ七一八
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セハハ一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セハハ一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セ五十一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セ五十一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セ五十一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セ五十一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ
セ五十一
あく^ハかくまく^ハりゆ^ハお^ハく^ハく^ハす^ハ

積み重ねて山の上に山きたのをあ狀とみまつて
その血あそおの空すころとやけの死す山きた

小山 通室亭為保

卧童因

七段目

よみくわくよみくわくよみくわくあらすへあまき十十九ぞ
よみくわくよみくわくよみくわくよみくわくよみくわくよみくわく

新橋亭遠子

日出山 梅

五十三五

王 韶

五十三五

竹 長

五十三五

梅 海

五十三五

龍姿園梅名

五十三五

梅 海

五十三五

閑左堂

五十三五

門

五十三五

枝

五十三五

一

五十三五

枝

黄左堂真原
仙フ
千菊因
星
歌良九
繁
文清舍仲澄
霞明
千菊因

太東房
大東房
他面堂
閑左堂
閑清因
墨入

十五一ハ

ヤクシの火とくす赤葉一あまく武またみよ

談附接麟馬

ハハ一セ

ミえんや、サとつるるのあくはつぎのつづみやも

記

五五セセ

情さる人よもぐり九本の水さうすむもひりぐり

永日菴梅春

ユミユ一

づかくゆきのせーくらみかうて少くあしるおほお

仙

一ハ三一

のくわんじんのぬの萬角羊角よりくもさあく

サ

七五ナ一

とくのものとくの縁どもくさのあーまるもくおもく

千菊園

ナ一ユ五

そめの月とくへくと竹音骨あたかく咽玉なう

松成

七五ナ一

とくの月とくへくと竹音骨あたかく咽玉なう

雀

ナ一ユ五

燐のあくよかとアスケをもんづくくともあつた

梅重

三五

あくよかとアスケをもんづくくともあつた

保智菴ニ喜

ナ一セ

よくよくの色月うれしもとすあみかくす

梅門

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

常總菴

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

保智菴ニ喜

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

梅門

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

常總菴

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

常總菴

ナ一セ

ううううの上ううう菖蒲草拂拂あまきを向よへ

常總菴

八段目

セヌハヌ

きりのぬすの詠歌の年號のみをあくま

水

七

夢廻屋浮橋

キヤ

王端子

キヤ

龜雀亭長女

キヤ

鷺山入窟賀九

キヤ

百話房丹飛

キヤ

津葉成

キヤ

白桃園春華

キヤ

常盤亭於蔭

キヤ

卧竜因

セ。ハ五
年よりむすゞの跡ノトモ移改もそぞる故稱
小あくともとちよ旅のことをせりつて舟のよるるにて

九段目

関左堂 卧龍園

千菊園

仙人

門

墨

人

全

都

喜

丸

繁

海

閑左堂

年

山形

雀宮

常總

卷

年

十

セエハヤ
猪の之間かうあくともらひきやつまく白壁をりき玉あくとも
セエハヤ
子ども雀すく一ー巢巣を一おきあくえあくとも
セエハヤ
なあふ鳥の内ひ清角とあくともあくともあくとも
セエハヤ
かくはく太カ風をく天せきの空一ー山形の山科
セエハヤ
山科山雪ウリサムラスモアシテモシロシヤモニ
セエハヤ
尺八のものあるもあくともあくともあくとも
セエハヤ
猪ササガラタマツメアケヨホク小唐とくすむ浦風
セエハヤ
正アヤハシのうよアサナゲのたちの居まうとよに雀屋
セエハヤ
雪うり山地の後ろのたしよ/あくとも安井、走るあくとも
セエハヤ
行くよつてのきよ風のまごとくつこちの白むく

宝市亭

緑樹園

喜郷園

繁守門記

年

十五
よ代ふきあとえに尺ハサウテの下のトモ
十六
まくさーあセヌモウヤーあすの舟より船孔
十七
アシカツミアリの跡入とる人さよ被ひーク
十八
シテモー。雪を上り舟を移す
十九
影 蟹 亭
守 地
樹

十段目

二十
シテトヨ
二十一
シテモセ
二十二
モジルアリのミクル天川やあナト
二十三
シテハ土
二十四
モジルのナリモアヒ居人魂するモ
二十五
シテハ
二十六
アキモチケツマツタモハモニテ迷失もナ
二十七
カノヨモキメニスカムアリともかの妻モナ
仙
石
轆
黄金亭家滿人
年
世
門
冲
煙
住
年
世
管
鳳

十五
たすりとす多くうれす事のあまもあく
十六
つとまきの事やも候もあくとまおまも男てつくる
十七
たきほするアト歌あはとつるあく男と名の拘や行
十八
久の天川やーとナア月のうつるの男一
十九
一等アキモチ女房のおまの隊も相のモリル
二十
きみ。ナキアモモジアモ男氣
十一
土段目

三
ナキアモモジアモ不つる菊のゆのあく
四
ナキアモモジアモ不つる菊のゆのあく
五
ナキアモモジアモ不つる菊のゆのあく
六
ナキアモモジアモ不つる菊のゆのあく
七
常盤亭松齋
八
梅
九
常盤亭松齋
十
守
十一
技
十二
郷
十三
守
十四
因

▲新作者位附

極上吉	綱室貞雄	上上吉	龍猛因梅寸
大上吉	柳下窟石門	上上吉	龍姿園梅名
大上吉	鷄鳴菴東雲	上上吉	閑左堂
大上吉	桃英舍久盛	上上吉	星屋運世
大上吉	文明亭玉守	上上吉	常盤井影樹
功上上吉	梅農屋	上上吉	通鑑亭千春
功上上吉	千菊園	上上吉	柳井園一枝
功上上吉	惠風舍春草	上上吉	黃左堂其樂
至上上吉	禍烟亭葉秤	上上吉	柳井園一枝
至上上吉	愛樹園梅種	歌良九	仙府
至上上吉	披雲樓長住	杏	結城
		蓀	江戸
		清雅園草都音	江戸

ナイユモ
 素えんとつむ果かくの果かくたうのよのわづかふ
 一十七一
 本ほきあらわるすのやまくは葉く
 一五
 美士と美士つくりあふうの天の川を二度みあらぬものとおけ
 一十一九
 今ア何天とゆへめたうの葉うみまくへ
 鶴
 天と月とてくたくの令羽おうものまくめく神の山を
 一
 クヨムスギの四十七箇をさうに墨みやくしてある
 夏
 鳥居をあらわさんするもさうだすばり小室
 一
 天と月とてくたくの令羽おうものまくめく神の山を
 一
 おりゆくをのいろとめ因やくとせうとくのよ本とある
 一
 モクの秋くとくまく教よみをおもせ
 一
 ひなたこく。たうそれゑもれもれと舟にまくはゆの大ね
 卧龍園

小川
 葉
 川サ
 崑宮
 鳳
 舛
 舛
 石
 宁都音
 水流亭舟車
 甲斐
 寅道堂馬彦
 五
 和雪亭集丸
 す
 壇會樓芙蓉輔
 甲斐
 門
 倉
 門
 門

至	上吉	梅	鄉	上上吉	宝	市	亭
上	上吉	一瓢堂美村		上上吉	秀	作	舍
上	上吉	瓦葉亭都走丸	全	上上吉	淳	九	東金
上	上吉	紅鏡園梅門	全	上上吉	甘	喜	江戸
上	上吉	志賀迺井錄	結城	上上吉	戲六亭龜桂	ミタ	
上	上吉	新橋亭遠子	江戸	上上吉	玉	端子	吉ヤ
上	上吉	高砂亭松成	全	上上吉	玉	繁	山形
上	上吉	常總庵	舊官	上上吉	柳谷亭千年	仙フ	
上	上吉	便崇園友拙	三足筋	上上吉	黃金亭家鸞	岩井	
上	上吉	芭菴竹長	日出山	上上吉	筑波山人	當部	
上	上吉	葛飾墨人	江戸	上上吉	千代農屋春旗	太田	
上	上吉			月廻屋	下良界		

當鑑倉と題し 一瓢堂主人判

麻生

十五、
ぬくの海の波とよつゝオのまつとる魚の市人 國字垣
十三、
ぬくの海の波とよつゝオのまつとる魚の市人 紅鏡園梅門
口あれのもえとねり唇一月の猶の馬肉と
手代猪子とせふとくをあてひりとくをく星み井 卧竜園

